

平成 26 年度 危機管理士 2 級講座（社会リスク編）開催レポート

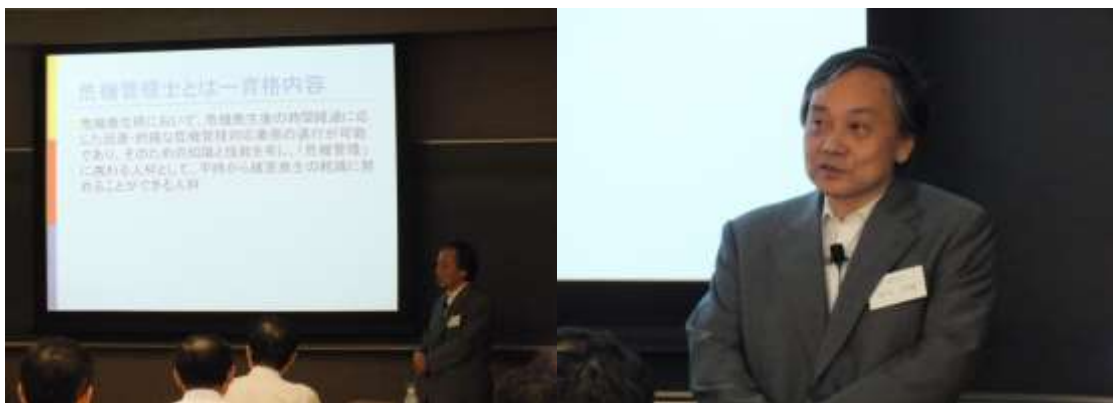
2014 年 8 月 7 日～9 日にかけて、平成 26 年度危機管理士 2 級試験社会リスク編が開催されました。自治体、民間企業に所属される方々をはじめとして、幅広い分野から多くの方々に参加して頂きました。

【2014 年 8 月 7 日】

第一講義（10：30-12：00）

「危機管理概論」 明治大学 市川宏雄

東日本大震災は東京の災害対応能力を問う試金石となりました。この講義では、国と自治体における危機管理政策実施上の課題を考えた後、世界の主要都市と比較して東京のリスク指標が高いこと、3.11 では実際に帰宅困難者が街に溢れたことを振り返り、東京が国際都市として今後どのような危機管理を行っていくべきかについての講義が行われました。



第二講義（13：00-14：30）

「業務継続計画（BCP）」 東京海上日動リスクコンサルティング（株） 指田朝久

行政・民間組織が災害等で甚大な被害を受けた場合、その後の業務レベルは著しく低下します。そのようなリスクに対応するため、業務の立ち上げ時間を短縮する取り組みや、発災直後の業務レベルの向上の手順を決めておく計画が必要とされます。第二講義ではこの事業継続計画（BCP）の仕組みについて、東日本大震や新型インフルエンザ対策特別措置法で行われたものを事例に挙げながら講義が展開されました。



第三講義（14：40-16：10）

「大規模事故と広域医療対応」 日本 DMAT 近藤久禎

第三講義では「東日本大震災における DMAT 活動・被ばく医療活動における指揮調整の課題」というテーマで講義が行われました。DMAT は「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されますが、その活動戦略の上位目標は「防ぎ得た災害による死亡」を減らすことです。この講義では、東日本大震災発生後に実際に行われた DMAT 活動を時間と地域ごとに追い、現場の様子や得られた教訓について学びました。



第四講義（16：20-17：50）

「地域の安全、防犯」 セコム（株） 甘利康文

第四講義では「オープン空間のセキュリティ」というテーマで講義が展開されました。前半では今日の日本の犯罪状況や犯罪の成立要件を、後半では「街全体」に焦点を当てた防犯環境設計とセキュリティについて学びました。



【2015年8月8日】

第五講義（9：20-10：50）

「国民保護」 神奈川大学 幸田雅治

「国民保護」は、万一武力攻撃や大規模テロが起こった時に①住民に正確な情報を伝え、迅速に住民の避難を行う ②救援、攻撃による災害への対応を行うための仕組みです。地震や台風等と違い、武力攻撃やテロは「悪意ある相手により引き起こされる」という点においてさらなる警戒が必要である、と幸田教授は強調しておられました。この講義では国民保護法成立に至るまでの経緯やその課題を学ぶのと同時に、生物兵器の種類やバイオテロを想定した訓練の方法など、より実践的な国民保護の在り方について学びました。



第六講義（11：00-12：30）

「情報セキュリティ、人為災害・事故とリスク・保険」

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント（株） 落合正人

インターネットが必須業務を実施する上で必要不可欠な存在となったことで、今日では構造的な破綻のリスクがシステムばかりでなく社会までも破壊し得るまでの状況となっています。この講義では「情報セキュリティリスク」という観点から、守るべき情報の特定や決断、優先対策すべきリスクシナリオパターンや、情報漏洩やシステム停止時にどのような対応を行うべきかについて学びました。



第七講義 (13 : 30-15 : 00)

「感染症」 元神戸市保健福祉局長 桜井誠一

第七講義では「感染症と危機管理 神戸発 2009 年新型インフルエンザ国内感染第 1 号発生を事例として」というテーマで講義が行われました。講義では、2009 年の神戸市が新型インフルエンザ対応経緯を行った際の出来事を振り返り、神戸市や国の報告書から諸対応の何が課題・問題であったのか、今後の危機管理体制においてどのような改善を行っていくかについての考察が行われました。



第八講義・第九講義 (15 : 10-18 : 20)

「危機管理演習・危機管理演習報告会」 千葉大学 石川永子

第八講義では、大停電を想定したミニ模擬訓練と、目標管理型対応を学ぶ「クマ演習」を行いました。大停電の模擬訓練では、大停電発生 3 時間後を想定し、中堅企業の総務課長役になりきって①状況予測 ②災害対応の具体的な目標設定 ③目標達成のための A 社の役割 ④2 日後までの目標と対応方針、関係者・取引先へのお願い を考え、グループごとに発表を行いました。

クマ演習では「市内で熊が目撃され、さらに負傷者が出た」という設定で、現場周辺の地図や外部条件、それまでの対応等を参考に、市の鳥獣駆除の担当課長としてどのような目標と戦略を立てるべきかを考えました。



【2014年8月9日】

第十講義（10：30-12：00）

「危機管理士総論」明治大学 中林一樹

「日本は『社会リスク』が単独で顕在化するよりも、地震や津波といった『自然災害』と複合化する可能性をはらんだ国である」というお話から、この講義は始まりました。最終日であるこの日は「複合災害・複合リスクと BCP」というテーマで講義が行われ、東日本大震災や阪神・淡路大震災等で起きた複合災害の実例を追いながら、「資源の制約を想定し、限られた資源での対応を考える」業務継続計画（BCP）について学びました。

